

神経精神科学

担当指導医師

●本院

教授：大塚 耕太郎

講師：八木 淳子、福本 健太郎、三條 克己

講師（特任）：山家 健仁

助教：小泉 範高、三田 俊成、吉岡 靖史、内出 希

非常勤講師：伴 亨、鈴木 満、及川 暁、智田 文徳、星 克仁、中山 秀紀、磯野 寿育、遠藤 仁

基本方針：

精神障害の診断と治療、ケア、リハビリテーション、精神保健福祉に関する理解を深めることを目的とし、医療行為の内容については、厚生労働省、臨床実習小委員会の最終報告案「許容される基本的医療行為の水準Ⅰ～Ⅲ」のなかで、当科関連の事項を中心に、出来る限り参加できるようにする。具体的には以下に記す実習に参加する。

実習内容：

1. 外来

- (1) 指導医の指示に従って、初診面接、問診により正確な精神科的既往歴、生活史、現病歴、ならびに身体所見を聴取する。方法論としてはさまざまな症状評価尺度の記載法を学びながら、それを実際に臨床診断のために用いていく。
- (2) 精神科医による診察、主に新患の診察状況を見学する。
- (3) 鑑別すべき疾患を列挙し、鑑別のための検査計画をたてる。その後、ICD-10、DSM-IV・5を用いて精神医学的診断を行う。
- (4) 薬物療法、精神療法、認知－行動療法リハビリテーションなど適切な治療計画をたてる。
- (5) 任意入院、医療保護入院、応急入院、措置入院など、精神保健福祉法による入院手続きや退院請求および処遇改善請求を理解し、その適応を検討する。
- (6) 他の総合病院や精神科病院との連携を学び、身体的合併症を持つ精神科症例や身体科で加療中に精神症状が発現した症例について、コンサルテーション・リエゾン精神医学的臨床を体験する。

2. 病棟

- (1) 上級医の指導のもと、2～3名の入院患者の主治医として、疾患の理解を深め、急性期治療（向精神薬の投与、修正型電気けいれん療法）、慢性期治療、リハビリテーション、社会復帰、環境調整に参加する。
- (2) 患者の人権についての理解を深め、精神保健福祉法による適切な身体保護・拘束について理解する。
- (3) 指導医のもとで、症例のプレゼンテーションを行い、文献的考察を加味した症例報告を提出する。

- (4) 特に、急性期の統合失調症や気分障害（うつ病相、躁病相）の治療、器質性精神病（脳器質疾患に伴う精神病、症状精神病）の検査と治療、児童・思春期の精神障害の治療、慢性期の統合失調症のケアとリハビリテーション、老年期の認知症関連疾患（脳血管性認知症、アルツハイマー型認知症、初老期認知症など）の診断・治療・ケアに参加する。
- (5) 脳波、心理検査（性格検査、知能検査）、電気けいれん療法を見学する。
- (6) 患者さんと積極的に交流すること。

3. 医局行事への参加

- (1) 抄読会：最新の外国語文献の内容を把握し、それを教室員に紹介する。他の紹介内容について質疑応答に参加する。
- (2) 回診（週2回）：精神科に入院中の症例について病状、予後、治療方針を考え、質疑応答に参加すること。
- (3) 症例呈示会：治療困難な、もしくは興味深い症例の検討に参加し、意見を述べること。
- (4) 学生による症例発表：ポリクリの症例研究を検討し、先輩として意見を述べ、指導すること。
- (5) 医局主催のセミナー：各専門分野の講師が呈示する研究内容を把握し、質疑応答に参加する。

4. その他

- (1) 精神保健福祉センター、保健所における精神保健相談などの各機関の機能を講義・実地見学等により理解し、精神保健福祉行政についての知識を習得する。
- (2) 精神科救急についての知識を習得する：具体的には、当直医とともに精神科救急患者を診察し、救急処置や入院の要否の判断過程に加わり、任意入院、医療保護入院、応急入院、措置入院などの入院形式の適応を考慮し、精神保健福祉法に定められた対応形式を実際に体験する。
- (3) 精神科薬物療法のセミナーに参加し、抗精神病薬、抗うつ薬を中心とした向精神薬の薬理作用を理解し、実際に投薬計画を検討すること。
- (4) 精神科症候論や医学史のセミナーに参加し、精神医学の症状論や疾患概念の歴史への理解を深め、現行の精神医学的パラダイムや医療倫理への学問的検討を行うこと。
- (5) 精神医学的倫理についてのカンファレンスに出席し、基本的人権と強制入院、服薬コンプライアンスと向精神薬の副作用、治療的-非治療的薬物投与の問題などについて意見を述べること。
- (6) 地域精神保健の講義・実地見学等により理解し、自殺対策や災害精神医学についての知識を習得する。
- (7) こどものこころのケアについての講義・セミナー・実地見学等により、小児精神医学について実際に体験することや学問的検討を行う。

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用区分	使用機器・器具等の名称	個数	使用目的
視聴覚用機械	ノート型 PC	1	臨床実習における症例検討会
視聴覚用機械	PC 一式 (Precision370HT)	2	臨床実習における症例検討会
視聴覚用機械	データプロジェクター (XJ-350)	1	臨床実習における症例検討会
視聴覚用機械	デスクトップパソコン (SVJ2021AJ)	1	講義資料・問題作成
視聴覚用機械	ノートパソコン (ThinkPad X1 Carbon)	1	問題作成
視聴覚用機械	デスクトップパソコン (ThinkCentre M91P)	1	実習スケジュール管理等
視聴覚用機械	デスクトップパソコン (MD094J/A)	1	講義資料作成
視聴覚用機械	デスクトップパソコン (SVJ2022AJ)	1	実習資料作成
実習用機械	ファックス 一式 (キャノファクス L410)	1	被災地における実習時に使用
そ の 他	複合機 一式 (RICOH MP C6003SPF)	1	講義資料印刷等
そ の 他	オートフィードシュレッダー (AutoMax200C)	1	患者カルテコピーの個人情報保護
そ の 他	カラーレーザープリンター (IPSIO CX3000)	1	臨床実習における講義資料作成
そ の 他	複合機 (imagic NEO C600)	1	講義資料作成用